

環境負荷の全体像

環境型社会を前提にしたモノづくりを目指します

従来の「生産性向上、ムダ排除など、結果としての環境負荷低減」という発想ではなく、逆に「環境型社会」を前提にしたモノづくりに取り組みたいと思います。具体的には使い捨てではないリサイクル可能な乗用車用タイヤを究極の開発目標にしています。そのために私は2つの事例から学ぶべきだと考えます。一つ目は食品メーカー。彼らは1gの食材で1gの商品を作るシビアな仕事を続けています。二つ目は大田区の町工場。彼らは音を防音材で防ぐのではなく、精度を高めたモノづくりで音の発生自体を解消しています。この2つの視点からモノづくりを見直すと、素材を大切に、設備や働く人の側から考えるなど、従来とは違ったモノづくりのヒントが生まれてきます。私は材料を使い切るムダのないタイヤづくりを実現したいと思います。一般の家庭でも食材は使い切るのが当たり前で、廃物は堆肥として次の食物栽培に活かします。そうした循環型社会に見合ったタイヤづくりこそ、地球温暖化防止に貢献するものと確信しています。



常務執行役員 タイヤ生産技術本部長兼平塚製造所長兼
横浜ゴムエンジニアリング取締役社長
高山 章久

環境負荷の全体像(集計対象:横浜ゴムの8生産事業所)

カッコ内は対前年比

